

日本原子力学会報告書での、東電福島第一原発廃炉の4つのシナリオ

最終的な状態	シナリオ終了 まで	廃棄物量 (放射能の減衰を 仮定したもの)	備考
【シナリオ1】 即時解体・全撤去 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 機器・構造物および汚染をすべて除去。 ➤ 放射性廃棄物の全量搬出。 	100年以上	約780万トン	
【シナリオ2】 即時解体・部分撤去 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 機器・構造物および汚染の一部が管理下残存。 ➤ 放射性廃棄物は処分場搬出まで保管。 	100数十年 ～300年	約440万トン	300年程度とは、低レベル放射性廃棄物処分施設の管理期間と同様。
【シナリオ3】 安全貯蔵・ 全撤去（遅延解体） <ul style="list-style-type: none"> ➤ 機器・構造物および汚染をすべて除去。 ➤ 放射性廃棄物の全量搬出。 	100数十年 ～200数十年	約180万トン	開始後、十数年の準備期間
【シナリオ4】 部分撤去・ 安全貯蔵（遅延解体） <ul style="list-style-type: none"> ➤ 機器・構造物および汚染の一部が管理下残存。 ➤ 放射性廃棄物は処分場へ搬出まで保管。 	100数十年 ～300年	約120万トン	開始後、十数年の準備期間。300年程度とは、低レベル放射性廃棄物処分施設の管理期間と同様。

※それぞれの開始時点はデブリ取り出し時点

出典：一般社団法人日本原子力学会 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会「国際標準からみた廃棄物管理-廃棄物検討分科会中間報告-」
(2020年7月21日公表) より岩渕友事務所作成

2021年5月17日 参議院決算委員会提出資料④ 日本共産党 岩渕友